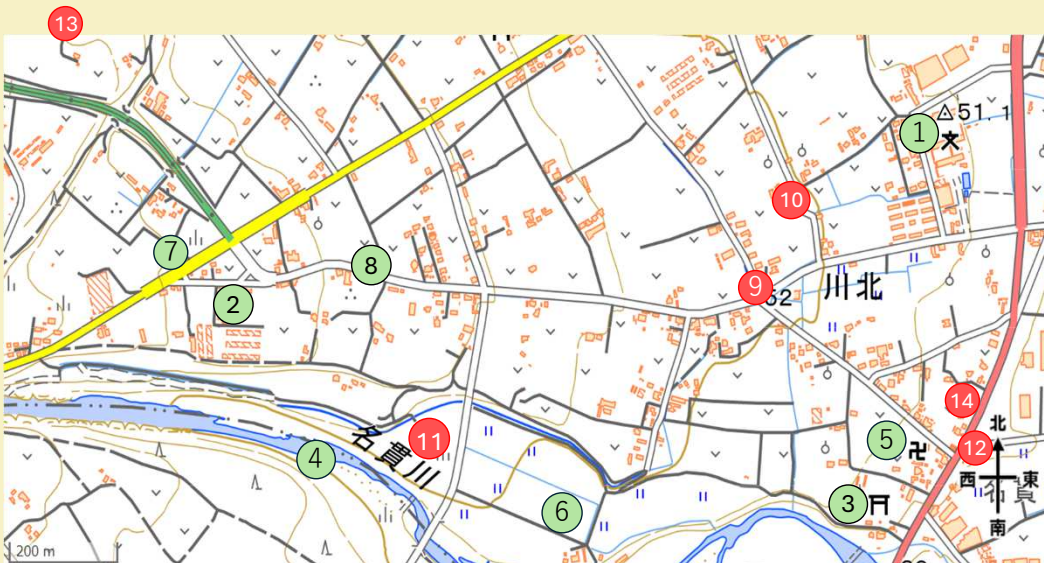
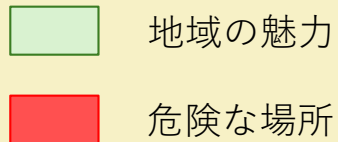


都農町地域資源マップ 23班

班員 長倉、溝添、田中、荒川、武田



地域について各班員の感想

（武田）飲食店の数は少ないものの、自然が豊かで、とてもどかな雰囲気だった。農業も盛んで、米や玉ねぎ、お茶など多様な農作物が育てられており、農業用水はとても澄んでいて美しかった。山間地域であるため坂道が多く、都市部と比べると歩くのがかなり大変だった。

（長倉）都農町は平坦な田んぼや畑が広がっており農業が盛んだった。一軒家の土地も広いように感じた。長い直線道が多く、足元が悪いところもあったため休憩しながらフィールドワークを遂行することができた。地元の住民にも話を聞くことができて貴重な経験になった。

（溝添）都農町は自然にあふれ、とても心が落ち着く環境であった。また、人の温かさにかくさん触れることが出来た。一番驚いたのは水のきれいさである。水は澄んで、冷たかった。フィールドワークだからこそ感じることでできるとても貴重な経験だった。

（田中）実際に訪れることで、田んぼや畑・川などの自然に触れ、都農町の方々のお話も聞くことができた。そこから、都農町の実態や課題を発見し、また、人の温かさや都農町のたくさんの魅力に気づくことのできる充実したフィールドワークになった。

（荒川）都農町は広大で平坦な土地に、畑や田んぼ、一軒家が立ち並ぶとても穏やかな地域だった。地域住民の方は急なインタビューにもかかわらず、いやな顔一つせず答えてくださったため、やさしい方ばかりだった。初めてのメンバーで楽しく行えたので、とてもよかった。

①都農南小学校



全校生徒240人（2024年度）であり、校舎が3棟ほど見えた。国道10号線沿いに面しているため車の交通量が多く、周辺に「飛び出し注意」の看板が多く設置されている。フィールドワークは土曜日だったが運動場に小学生がいてにぎわっており、横にさつまい畑が広がっていた。（長倉）

②養鶏場

普段関係者以外立ち入り禁止だが、鶏が出荷されたばかりだったため中に入り話を聞くことが出来た。ヒヨコから鶏に成長するまで約50日かかり出荷される。年に5.5〜6回鶏を仕入れており、日本ホワイトファームに出荷している。町内には約40の養鶏場があり、それらの多くは日本ホワイトファームが児湯食鳥に出荷されている。入口にある看板には「関係者以外立ち入り禁止」と書いてあり、鳥インフルエンザへの対策が取られていることが分かった（溝添）



⑤貫川寺

貫川寺は1909年に高橋貫弘和尚によって開かれた、高野山真言宗・観弘山のお寺で、九州八十八カ所の36番札所となっている。厄除祈願・水子之霊供養を行うことができ、境内には、三界萬霊の供養処として、水掛六地藏尊・十一面観世音菩薩・水子地藏尊、安産と子供の健やかなる成長を願う子育て大師像を安置している。（田中）



⑥農業が盛ん



広大な田んぼが広がっており、水も透明度が高く冷たかった。基盤整備事業コラ田工区と書かれた記念碑があった。ほかにさつまいもやキャベツなどの畑も多くあった。（田中、長倉）

⑨十字路口



この十字路口は高速道路から降りてきた車が通り、車からの見通しが悪いのでそれぞれの道路から来た車がお互いを認識できずに交通事故が起きる危険性がある。地域住民はこのことを知っているためこの十字路口にきたら速度を落とすが高速から来た車はこの地域の地理に詳しくないためスピードを落とさず危険性をさらに高める原因となっている。（武田）

⑩水路



近くにある農家さんが個人で農業を行っている田んぼの水を引くために使われているもの。幅がかなりあり柵もないため水路に誤って落ちてしまうという危険性がある。また水路が草によっておおわれており外から見て水路が見えにくい状態になっておりこれが水路に落ちてしまう危険性をさらに高めている。（武田）

③三日月神社

三日月神社は、国道10号線と名貫川が交わるあたりにある。鳥居の後ろは草で覆われていたが、草を刈って手入れをされている方がいらした。三日月石を御神体としているが、三日月石が実際に存在するのは名貫川を挟んで南側の篠原府地区の「上名貫神社」である。創建年代は不詳だが、江戸時代には高鍋藩・秋月氏によって再建され、明治時代の神仏分離令によって神社となった。伝説によれば、名貫川の飛び石に三日月の文様が浮かびあがり、それを藩主が神として祀ったとされている。（溝添）



④名貫川



都農町と川南町の境を流れ、深い谷を刻む。名貫川には30余の滝があり、国指定名勝の尾鈴山瀑布群に指定されている。水の透明度は高く、アユやエビ・カニなどの魚が生息する。下流には丸く削られた岩が数多く堆積していた。（長倉）

⑦耕作放棄地にできた工場

問題視されている耕作放棄地に、工場を新設するなどして活用されているところも見受けられた。ほかに、多くの荒れ地や耕作放棄地がみられたので、さまざまな活用方法で問題を解決していくべきだと考える。（田中）

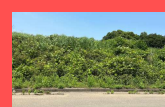


⑧地域福祉バス

都農町では、通学路線及び生活路線の確保のために運行されている。都農びよんや特産物などのデザインを施したラッピングバス3台体制で、土日祝日及び年末年始を除いて巡回している。一人一回あたり200円（小学生以下100円）となっており、障がい者手帳を持っている方は利用料は半額の100円となる。また、運転免許返納者に交付している無料乗車券を提示すれば無料で利用できる（溝添）



⑪荒地



写真の反対側にある田んぼとは対照的に、この土地はあまり整備されておらず、人の身長ほどの草が生えている。そのため、どのような地形なのか把握しづらく、さらにガードレールも設置されていないため危険な場所である。（武田）

⑫バスの本数



バスの本数は写真ではわかりにくいですが平日はおおよそ一時間に一本ほど午前の時間帯は通っているが午後は17時までしかバスは通っていない。そして休日はさらにバスの本数が減っており特に日曜日は16時以降はバスが通ってわず不便だと感じた。（荒川）

フィールドワークの様子



⑬ソーラーパネル



耕作放棄地や山の斜面などの日当たりが良いところに建設される。草木を刈り倒してソーラーパネルを建設するため、地盤が崩れやすく、大雨や地震が起きた際に土砂災害などの危険性が高まる。（荒川）

⑭倒壊した家



国道に面しておりこの地域の中では比較的人通りの多い場所なのでかなり危険な場所である。一応コーンでバリアケードのようなものが作られているが付近を通る際は注意が必要である。（荒川）